

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	23-089	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Reduced Alcohol Consumption and Major Adverse Cardiovascular Events Among Individuals With Previously High Alcohol Consumption 過去に飲酒量が多かった人における飲酒量の減少と主要な心血管系有害事象		
執筆者		
Kang DO, Lee DI, Roh SY, Na JO, Choi CU, Kim JW, Kim EJ, Rha SW, Park CG, Kim YS, Kim Y, You HS, Kang HT, Jo E, Kim J, Lee JW, Jung JM.		
掲載誌		
AMA Netw Open. 2024 Mar 4;7(3):e244013. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2024.4013.		
キーワード	PMID	
大量飲酒、飲酒量、心血管イベント、狭心症、虚血性脳卒中	38546645	
要旨		
<p>目的: 大量飲酒者における飲酒量の減少と主要な心血管イベント (MACEs) のリスクとの関連性について、様々な心血管疾患 (CVD) のサブタイプに着目して検討する。</p> <p>方法: 韓国国民健康保険サービスの健康診断データベースと自己報告アンケートを用いたコホート研究を実施した。2005年から2008年に初回健康診断、2009年から2012年に再度健康診断を受けた者 (40~79歳) のうち、初回に大量飲酒者であった者を分析対象とした。大量飲酒は、男性で1日4杯以上または週14杯以上、女性で1日3杯以上または週7杯以上と定義し、初回および2回目調査で大量飲酒者であった群と、飲酒量が減った群に分類した。主要アウトカムはMACE(血行再建術を受けた非血栓性心筋梗塞または狭心症、入院を伴う脳卒中、および全死亡の複合)の発生とした。</p> <p>結果: 対象者21,011人のうち、大量飲酒が継続した者は14,220人 (67.7%)、飲酒量が減少した者は6791人 (32.2%)であった。162,378人・年の追跡期間中、大量飲酒継続群では、飲酒量減少群よりもMACEの発生率が有意に高かった (817 vs 675/100000人年; log-rank P=0.003)。飲酒量減少群は、MACEのリスクが23%低下した (傾向スコアマッチングハザード比[PSM HR], 0.77; 95%信頼区間[CI], 0.67-0.88)。特に狭心症 (PSM HR, 0.70; 95%CI, 0.51-0.97)と虚血性脳卒中 (PSM HR, 0.66; 95%CI, 0.51-0.86)の発症リスクが有意に低下した。</p> <p>結論: 大量飲酒者の飲酒量の減少は将来のCVDリスクの低下と関連しており、特に狭心症と虚血性脳卒中において顕著な利益が期待できることが示唆された。</p>		